

平成29年7月22日からの大雨による 避難状況のアンケート調査の結果について (秋田市内)

平成30年7月3日
秋田河川国道事務所

アンケート調査の目的

秋田県内では、平成29年7月・8月と記録的な豪雨となり、各地で土砂崩れや家屋浸水などの大きな被害が発生しました。このとき秋田市では、危険が迫る地域の住民に対して、避難勧告や避難指示などの避難情報を発出し、住民の方々の避難を促しました。

このアンケートは、7月の大雨の時に住民の方々が実際に取った行動から、住民の方々がより確実に避難ができる情報の内容や伝達方法について検討し、今後の災害に備えるための基礎資料とするものです。

アンケート調査結果の概要

① 発令区域内における7月のときの避難実態について

- ・避難率は15%。
 - ・避難しなかった人の96%は、避難勧告や避難指示の発令を知っていた。
 - ・避難しなかった理由は避難しなくても安全だと思った人が78%。
- ⇒治水安全度の向上に伴い、被災実績が少ないこと等が原因で、避難しなくても安全と考えている人が多いと推察できる。

② 発令区域内における8月の大雨のときの避難実態について

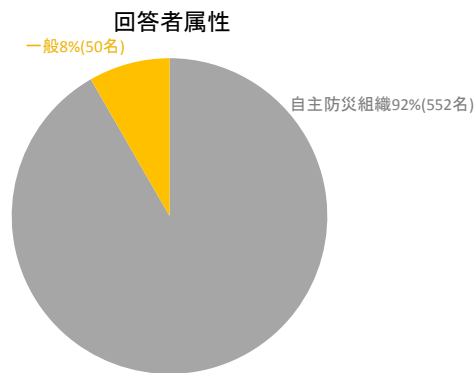
- ・避難率は3%。
- ⇒7月の大雨のときの避難率よりも小さい。この理由としては、避難勧告及び指示の発令が夜間であったためと推察できる。

1. 回答者の属性

回収数：602名

- ・自主防災組織：552名(92%)
- ・一般：50名(8%)

※()は回収数に対する割合



集計数(秋田市内に在住の方)：602名

- ・自主防災組織：552名(92%)
- ・一般：50名(8%)

⇒避難勧告等の発令区域内：65名(11%)

- ・避難された方：10名
- ・避難していない方：54名
- ・無回答：1名

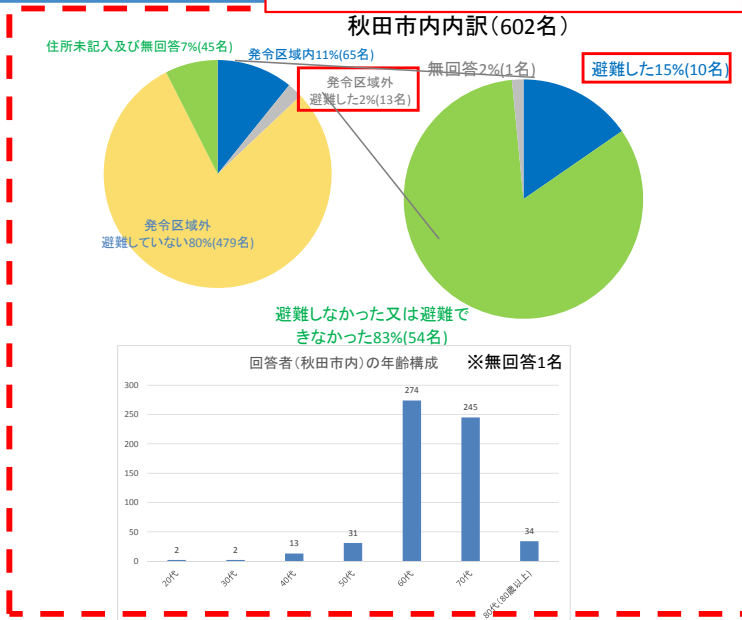
避難勧告等の発令区域外：492名(82%)

- ・避難された方：13名
- ・避難していない方：479名

※()是集計数に対する割合

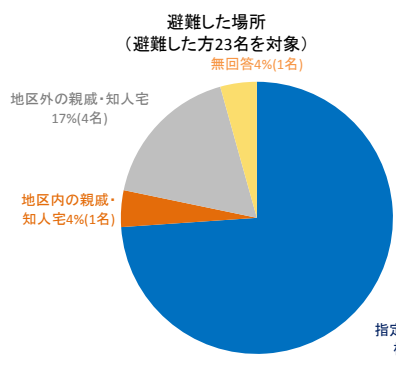
(避難された方23名を対象に集計)

7月の大雨の避難率は15%

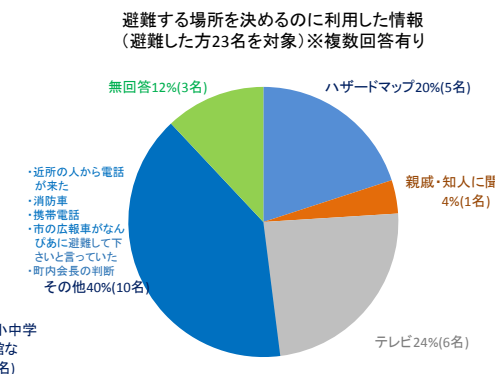


2. 7月22日からの大雨のときのあなたの取った行動(避難された方23名)

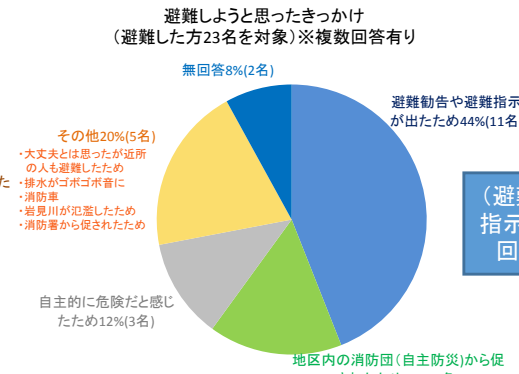
- ・テレビやハザードマップより、避難場所を決めている方が多く、テレビによる情報提供やハザードマップの公表が重要
- ・避難勧告や避難指示等の情報発信の手段をたくさんもつことが重要



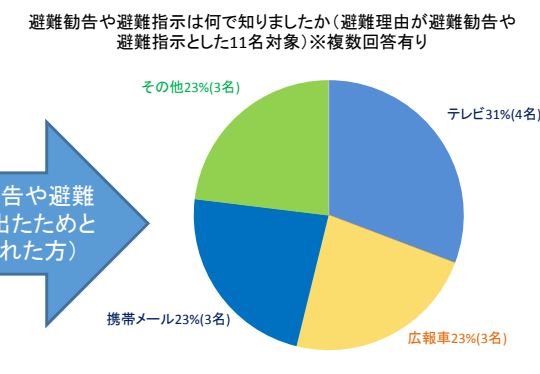
指定避難場所に避難された方が74%、次いで地区外の親戚・知人宅に避難された方が17%であった。



「テレビ」が24%で、次いで「ハザードマップ」が20%であった。 ※率は複数回答25に対する割合



「避難勧告や避難指示が出たため」が44%と最も多く、次いで「地区内の消防団(自主防災)から促されたため」の順番であった。 ※率は複数回答25に対する割合



「テレビ」が31%と最も多く、次いで「広報車」及び「携帯メール」と回答された方が多い。

※率は複数回答13に対する割合

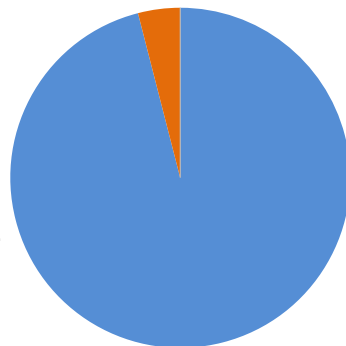
3. 7月22日からの大雨のときのあなたの取った行動(発令区域内で避難しなかった・できなかった54名)

- ・治水安全度の向上に伴い、被災実績が少ないこと等が原因で、避難しなくても安全と考えている方が多いと考察できる。
- ・避難勧告や避難指示等の情報発信の手段をたくさんもつことが重要と考えられる。

避難しなかった人の96%は、避難勧告や指示の発令を知っていた。

避難勧告や避難指示の発令を知っていたか
(発令区域内54名を対象)※無回答4名を除く

知らなかった4%(2名)



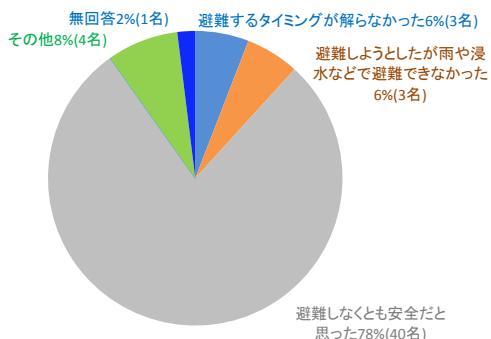
(知らなかった方2名)

知らなかった方2名は、「大雨の状況から自宅が危険だと思わなかったか」という質問に対し、「これまでの経験から危険だとは思わなかった」と回答している。また、「雨がやむまでの自宅での行動」は、「気象情報を気にする程度で普段と変わらない」と回答している。

避難勧告や避難指示を知っていたが、避難しなかった方が96%であった

避難しなかった理由は、避難しなくても安全だと思ったが78%

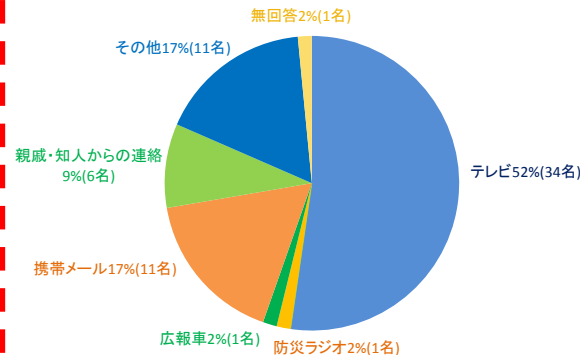
避難しなかった又はできなかった理由
(知っていた48名を対象)※複数回答有り



「避難しなくても安全だと思った」方が78%と最も多いが、「避難するタイミングが解らなかった(3名)」「避難しようとしたが雨や浸水などで避難できなかった(3名)」との回答もあった。

※率は全体数51に対する割合

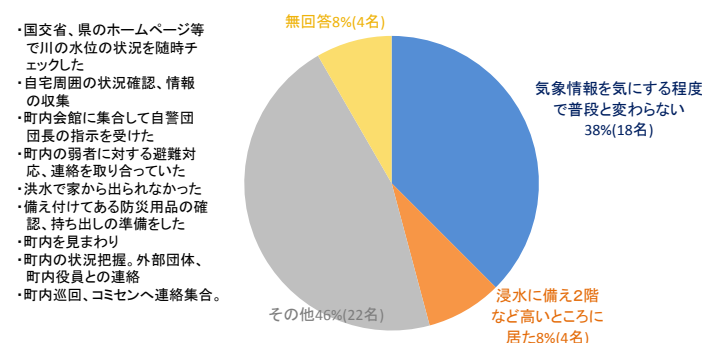
避難勧告や避難指示で出ていることを何で知ったか
(知っていた48名を対象)※複数回答有り



避難勧告や避難指示を知ったのは「テレビ」が52%、次いで「携帯メール」が17%であった。

※率は複数回答65に対する割合

避難勧告や避難指示が解除されるまでの自宅での行動
(知っていた48名を対象)※複数回答有り

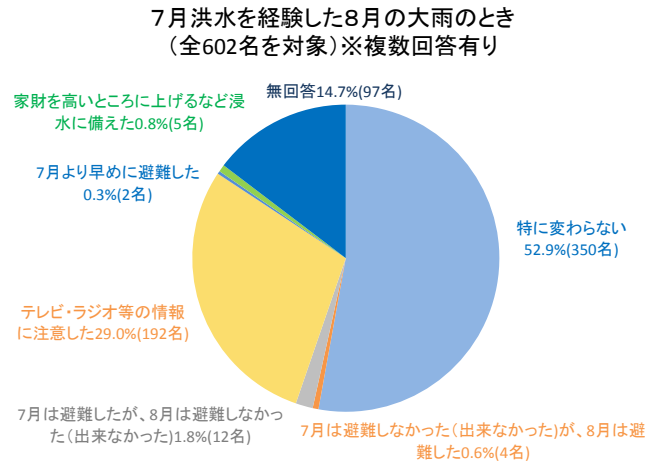


「気象情報を気にする程度で普段と変わらない」方が38%と最も多いが、「浸水に備え2階など高いところに居た(4名)」との回答もあった。

※率は全体数48に対する割合

4. 7月の大雨を経験した8月の大雨のときの行動、ハザードマップの認知度(秋田市内の602名)

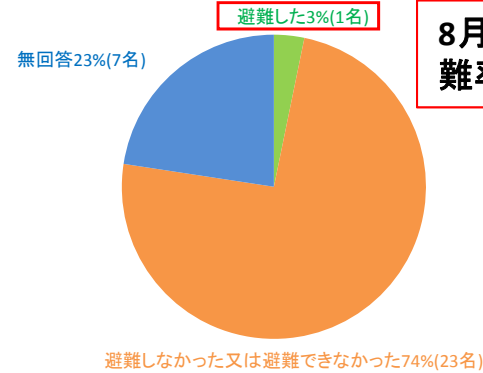
- ・避難率が小さな理由としては、8月の避難勧告及び指示の発令が深夜であったことが考察できる。
- ・ハザードマップを認知されている方が多く、ハザードマップから避難場所を決めている方も多い。



「特に変わらない」方が52.9%と最も多いが、「8月は避難した(4名)」「情報に注意した(192名)」「早めに避難した(2名)」「浸水に備えた(5名)」と33%以上の方が7月の大雨のときと違った行動や注意をされていた。

※率は複数回答662名に対する割合

8月の避難率
(発令区域内31名を対象)※複数回答有り

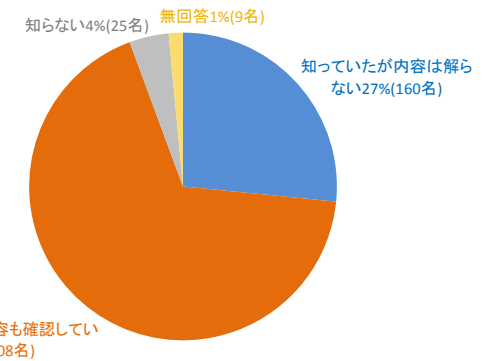


8月の大雨の避難率は3%

8月の大雨のときの発令区域内の避難率は3%であった。

※率は全体数31名に対する割合

秋田市ハザードマップ



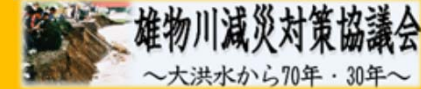
「知っていたし内容も確認している」方が最も多く68%、「知っていたが内容は解らない」方27%、「知らない」方4%となっている。 ※率は全体数602名に対する割合

5. 7月・8月の大雨を経験されて、感じたことや思ったこと

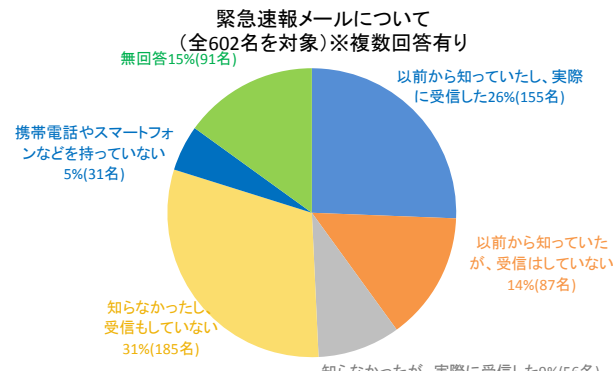
- ・さまざまな情報発信や避難勧告の発令のタイミング、避難場所の見直しが重要と考えられる。
- ・地域の防災力の向上が重要と考えられる。

- ・道路の冠水が原因で避難できなかった人もいる。道路冠水に関する情報が欲しい。
- ・危険を知らせる連絡が地域内にあればありがたい。
- ・避難勧告、指示を知らせる媒体、方法、タイミングについて再検討する必要がある。
- ・現在の避難場所に不安、道路冠水で避難場所に辿り着けない。臨機応変に避難場所を指定する必要がある。
- ・歩行困難者が避難場所までの移動が困難。災害時の支援者の確保が必要。
- ・自主防災隊の見直しをしたい。
- ・今後は注意しないといけないと思った。
- ・高齢者の多い地域でもあり、避難するにも声をかけあっていくことが大切。

アンケート調査結果 緊急速報メールについて

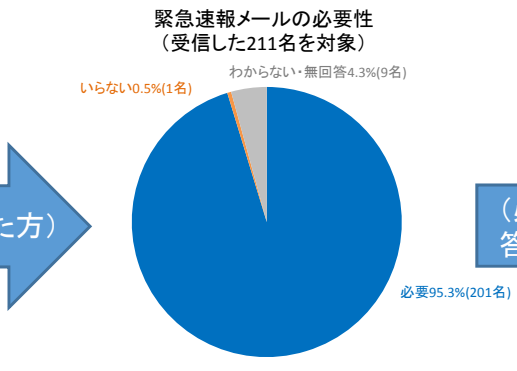


・緊急速報メールが、洪水時に実際に役立っていることが確認できる



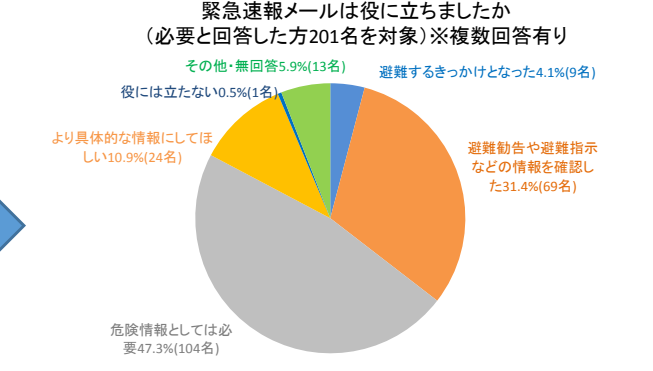
(受信した方)

「受信した」方は211名(35%)であるが、そのうち「以前から知っていた」方は名(26%)であった。
※率は複数回答605名に対する割合

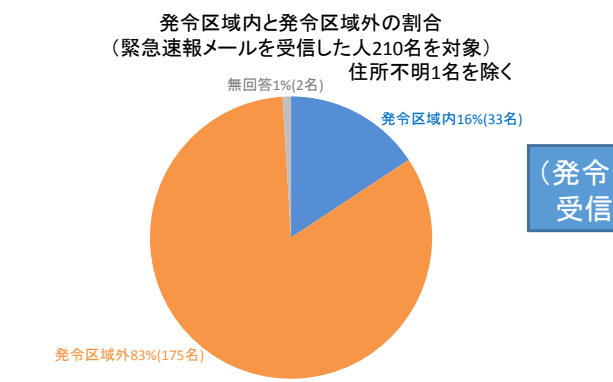


(必要と回答した方)

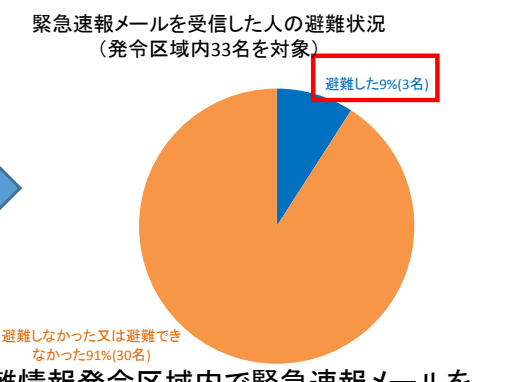
「必要」と回答された方が95%を占める。
※率は受信した方211名に対する割合



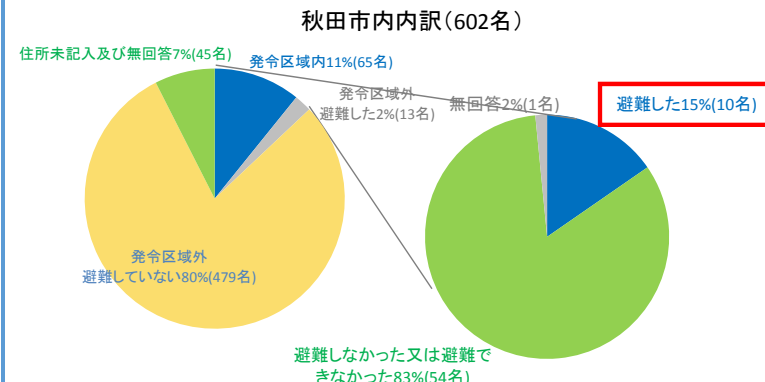
「避難するきっかけ」「避難勧告等の情報確認」「危険情報」などで役に立ったとしている方が82%を占める。
※率は複数回答220に対する割合



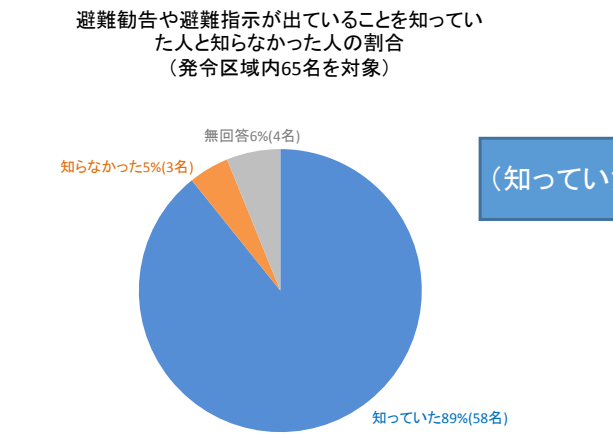
(発令区域内で受信した方)



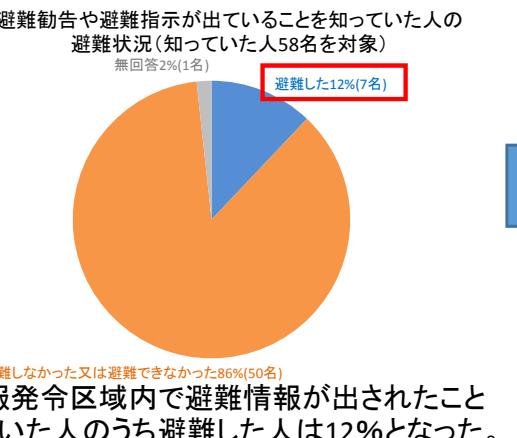
避難情報発令区域内で緊急速報メールを受信した人の避難率は9%である。



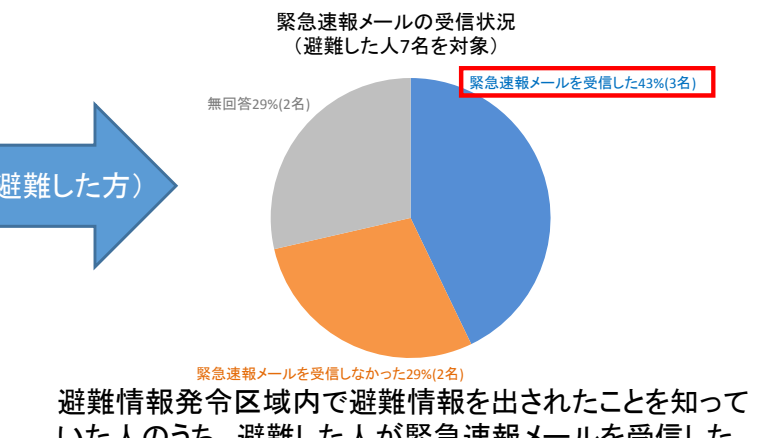
避難情報発令区域内で避難した方は15%である。



(知っていた方)



避難情報発令区域内で避難情報が出されたことを知っていた人のうち避難した人は12%となった。他の集計の避難率と同等の結果となった。



避難情報発令区域内で避難情報を出されたことを知っていた人のうち、避難した人が緊急速報メールを受信した割合は43%、受信しなかった人も29%となった。

課題と対策案

- 課題1：避難時間の確保
 - ・防災情報を早めに発令する等の対応
- 課題2：早急な避難
 - ・住民等の行動につながるリスク情報の周知（ハザードマップの見直し等）
 - ・避難情報など防災情報の伝達手段の多重化、発令タイミングの見直し（夜間は避ける等）
 - ・事前の行動計画作成
- 課題3：平常時からの洪水への備え
 - ・平時から避難情報の意味やとるべき防災行動を住民へ周知
 - ・災害に関する「心構え」と「知識」を備えた子供たちを育成する防災教育の充実
 - ・地域を巻き込んだ防災訓練の実施で、防災力の向上を図る。

今後の取り組み

7月の大雨及び8月の大雨で避難しなかった人の理由を踏まえ、今後は、避難率の向上を図るため、③に示す取り組みを実施していく。

- ①7月の大雨のときに避難しなかった人の理由について
 - ・治水安全度の向上に伴い、被災実績が少ないこと等が原因で、避難しなくても安全と考えている人が多いと推察できる。
- ②8月の大雨のときに避難しなかった人の理由について
 - ・避難勧告・指示が夜間に発令されたため、避難しなかった人が多いと推察できる。
- ③今後の取り組み
 - ・平時からの避難情報の意味やとるべき防災行動を住民に周知すること及び防災教育の実施等により、防災意識を高める(課題3に対応)。
 - ・避難勧告・指示を夜間ではなく、前倒して昼間に発令する取り組みの実施。(課題2に対応)

| 項目 | 実施内容 |
|------|---|
| 調査期間 | 平成30年1月15日～平成30年3月9日 |
| 対象地域 | 秋田県秋田市 |
| 調査方法 | <p>①自主防災組織(アンケート用紙配布)アンケート回収数552[92%] ※[]はアンケート総回収数602に対する割合</p> <p>②一般(アンケート回収ボックスの設置、インターネットによる回答)アンケート回収数50[8%]</p> <p>※アンケート回収ボックス設置場所 秋田市役所、西部市民サービスセンター、大住地区コミュニティセンター、南部市民サービスセンター、雄和市民サービスセンター、大正寺連絡所</p> <div data-bbox="938 775 1335 1078" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">秋田市役所</p> |
| 調査項目 | <p>①お住いの地区、年齢、家族構成</p> <p>②7月22日からの大雨のときの行動</p> <p>③7月の大雨を経験し、8月の大雨のときの行動の変化</p> <p>④緊急速報メールの受信状況等</p> |

参考-アンケート調査項目と結果及び考察一覧表

| No | 項目 | 結果 | 考察 |
|----|---|---|---|
| 1 | 回答者の属性 | ・一般と自主防災組織の方が対象で、自主防災組織の方が92%と多い | |
| 2 | 7月の大雨のときの避難について | ・避難警報発令区域内で避難した方は15% | |
| 3 | 7月22日からの大雨のときのあなたの取った行動（発令区域内で避難した方） | <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所は指定避難場所が74%と最も多く、避難場所を決めるのに利用した情報は、テレビやハザードマップが多い ・避難したきっかけは避難勧告や避難指示がでたからが44%と最も多く、避難勧告や避難指示の情報はテレビ、広報車、携帯メールで得ている | <ul style="list-style-type: none"> ・テレビやハザードマップにより、避難場所を決めている方が多く、テレビによる情報提供やハザードマップの公表が重要 ・避難勧告や避難指示等の情報発信の手段をたくさんもつことが重要 |
| 4 | 7月22日からの大雨のときのあなたの取った行動（発令区域内で避難しなかった方） | <ul style="list-style-type: none"> ・発令区域で避難しなかった人の96%が避難勧告や避難指示の発令を知っており、避難しなかった理由は避難しなくても安全だと思った方が78%と最も多い ・避難勧告や避難指示の情報はテレビや携帯メール等で得ている ・自宅での行動は気象情報を気にする程度で普段と変わらないが38%と最も多い | <ul style="list-style-type: none"> ・治水安全度の向上に伴い、被災実績が少ないこと等が原因で、避難しなくても安全と考えている方が多いと考察できる ・避難勧告や避難指示等の情報発信の手段をたくさんもつことが重要 |
| 5 | 7月の大雨を経験したあとの8月の大雨のときのあなたのとった行動 | <ul style="list-style-type: none"> ・特に変わらないが53%と最も多く、7月の大雨を経験して違った行動や注意をした方が31%ほどいる ・8月の大雨のときの発令区域内の避難率は3% | <ul style="list-style-type: none"> ・避難率が小さな理由としては、8月の避難勧告及び指示の発令が深夜であったことが考察できる |
| 6 | ハザードマップの認知度について | ・ハザードマップを知っていて、内容も確認している方が68%と最も多い | <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップを認知されている方が多く、ハザードマップから避難場所を決めている方も多い |
| 7 | 7月8月の大雨を経験されて、感じたこと思ったこと | <ul style="list-style-type: none"> ・道路の冠水等に関する情報が欲しい ・避難勧告を知らせるタイミング等の見直しが必要 ・避難場所の見直しが必要 ・危険を知らせる連絡が地域に欲しい ・自主防災隊の見直しが必要等 | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな情報発信や避難勧告の発令のタイミング、避難場所の見直しが必要 ・地域の防災力の向上が重要 |
| 8 | 緊急速報メールについて | ・緊急速報メールを受信した方は35%で、受信した方の95%が緊急速報メールを必要と回答しており、必要と回答した方の82%が実際に役に立ったと回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・緊急速報メールが、洪水時に実際に役立っていることが確認できる |